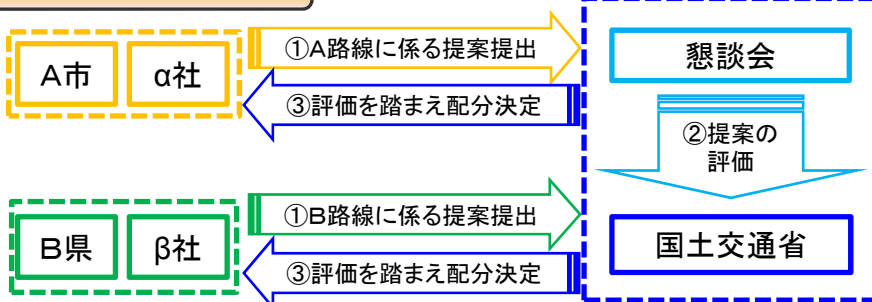


# 羽田発着枠政策コンテストの概要

## 概要

- 羽田発着枠配分基準検討小委員会報告書（平成24年11月28日）において、航空会社の自助努力だけでは維持が困難な地方路線の充実のため、地域と航空会社による提案に対するコンテストを通じて、当該路線に羽田空港の発着枠を配分する仕組み（政策コンテスト）を導入すべきとの提言がなされた。
- これを踏まえ、平成26年夏ダイヤ（3月30日～）からのコンテストを通じた便（3便分）の運航に向け「羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会」を開催し、コンテストの評価基準の検討及び提案の評価等を実施。

## スキームイメージ



※配分対象は3便分。使用期間はH26夏ダイヤから原則2年間。

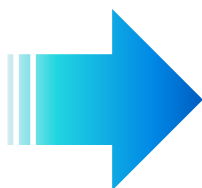
## 懇談会委員

加藤 一誠	日本大学経済学部教授
竹内 健蔵	東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授
花岡 伸也	東京工業大学大学院理工学研究科准教授
廻 洋子	淑徳大学経営学部教授
矢ヶ崎 紀子	首都大学東京都市環境学研究科 観光科学域特任准教授
柳川 範之	東京大学大学院経済学研究科教授

## コンテストの結果

- コンテストへの公募の結果、石見空港・佐賀空港・鳥取空港（w/ANA）、山形空港（w/JAL）の4空港について、羽田便の増便に向けた提案が提出。委員による提案の評価を踏まえ、**羽田空港―石見空港、山形空港、鳥取空港の3路線に対する発着枠配分を決定**（平成25年11月26日発表）。

【評価結果】 石見空港：911点 山形空港：891点 鳥取空港：874点 佐賀空港：799点



地域の取組に対するコンテスト方式の発着枠配分スキームを通じ、  
 ➤ 路線充実に向けた地域の取組へのインセンティブの付与、取組の高度化  
 ➤ 航空会社の自助努力のみに頼らない、地域主体の地方路線の充実  
 ➤ 地域住民生活の利便性の向上・地域の活性化  
 が図られることを期待。

# 羽田発着枠政策コンテストの各提案内容の概要(主な取組内容)

主な取組	石見空港（1便・ANA）	佐賀空港（4便・ANA）	鳥取空港（4便・ANA）	山形空港（1便・JAL）
<p>(1) 実施に向けた多様な関係者との連携体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>萩・石見空港利用拡大促進協議会による利用促進の取組</li> <li>商工会議所との連携による利用促進の取組</li> <li>島根県立大学との連携（潜在的利用者のニーズ調査、分析及び提案の実施）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明佐賀空港活性化推進協議会による利用促進の取組</li> <li>マイエアポート宣言事業所による積極的利用の取組</li> <li>県職員で構成する100人チームによる空港営業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取空港の利用を促進する懇話会による利用促進の取組</li> <li>観光プロモーター等による商品造成、企業誘致の取組み等、鳥取県東京本部及び関係機関スタッフによる取組の強化</li> <li>県庁内横断的に各種対策を実施するとともに、県の重要施策との連携を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形空港利用拡大推進協議会を中心に傘下にターゲットごとのWGを設置</li> <li>施策内容に応じ、県、市町村及び関係機関等が参画</li> <li>首都圏や海外においては、県拠点を中心に大手旅行会社等との連携により体制を確保</li> </ul>
<p>(2) 観光・ビジネス等需要の開拓に向けた施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体旅行商品造成支援（ANAとの連携）</li> <li>WEB等を活用した情報発信、個人向け旅行商品造成</li> <li>乗合タクシー等二次交通の充実</li> <li>サポーター企業登録の促進</li> <li>冬季利用促進対策（ツアー商品造成、個人・親子客向け助成等）</li> <li>友好姉妹都市とのスポーツ・文化交流や修学旅行への助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイエアポート運動（宣言）の推進</li> <li>首都圏における情報発信、営業体制の強化</li> <li>佐賀空港利用の団体・個人旅行商品の造成支援</li> <li>修学旅行誘致補助</li> <li>無料駐車場の増設</li> <li>空港アクセスの充実（1,000円レンタカーキャンペーンリムジンタクシー）の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規旅行商品の造成支援、米子空港と連携した山陰周遊旅行商品等による利用促進</li> <li>空港利用の促進を図る空港サポートクラブ制度の導入</li> <li>県重点施策と連携した運賃助成制度（移住定住促進、介護、子育て支援等）</li> <li>早朝便を利用した旅行商品造成支援（早朝便利用送客インセンティブの付与等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日促進に向けた東北広域観光プロモーションの強化</li> <li>空港ビルが中心となり、着地型商品を発掘・情報提供</li> <li>重点デスティネーションへの旅行商品造成等の取組を実施し乗継需要を喚起</li> <li>「山形空港サポーターズクラブ（仮称）」を組織し、出張利用者の掘り起こし・困り込みを図る（冬期限定割引等の実施）</li> <li>空港アクセスバスの5年振り再開等アクセスの改善</li> </ul>
<p>(3) 運航コスト削減のための施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空会社と地元とのリスク分担の取組</li> <li>※14万人を下回った場合、航空会社と地元がリスクを分担（地元負担は最大4億円）</li> <li>※負担方法は、着陸料減免の拡大、空港ターミナルビル使用料の助成等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着陸料の減免（1/3）</li> <li>夜間駐機補助（3/10）</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着陸料減免措置の拡充（減免率を1/3→1/2）</li> <li>搭乗率に応じ、増便分に係る着陸料及び航援料相当額の範囲内で支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着陸料の軽減（1/10）、保安施設検査業務費補助の業務時間に応じた増額、空港施設使用料の軽減、販売促進支援金（仮称）の支給</li> <li>路線収支共有制度（仮称）の創設</li> <li>※利拡協とJALの両者が、基本的に収支（黒字/赤字）を1/2ずつ取得/負担（＝共有）</li> </ul>